

ニッスイ養殖事業について

株式会社ニッスイ

2025年10月31日
漁業養殖推進部
金柱 守



長期ビジョン(ニッスイ中期経営計画)

Sustainability

2030年長期ビジョン
Good Foods 2030

もうワンランク上へ
行くための変革

事業ポートフォリオ
マネジメント強化

サステナビリティ
経営推進

人にも地球にもやさしい
食を世界にお届けする
リーディングカンパニー

中計2022-2024

中計2025-2027

中計2028-2030

Good Foods

Recipe1

Recipe2

Recipe3

事業成長

長期ビジョン(2030年のありたい姿)

2030年に向けた ロードマップ



今期
中計
方針

Recipe2
(2025~2027)

『New Value』

お客様・現場視点での新しい価値の創造/拡大

Recipe1
(2022~2024)

『お客様と共に資源価値の最大化を目指す』
資源アクセス強化(漁業・養殖) / 高付加価値化 / 体質強化



Recipe3
(2028~2030)

2030年のありたい姿

『Sustainable Growth』

～サステイナブルな資源価値を最大化し、持続的に成長し続ける～



2021

体質強化(国内養殖事業の建直し)

『New Value』 お客様・現場視点での新しい価値の創造/拡大

サステナブルな 資源アクセス強化

- ・種苗生産の更なる深化による養殖事業の成長
- ・新規魚種の取扱い
- ・既存魚種の増強

高付加価値化

- ・外食/中食向けの食材化推進

グローバル市場での成長

- ・日本発水産物のグローバル展開
- ・魚粉/魚油の輸出拡大と高収益化
- ・第3国販売強化



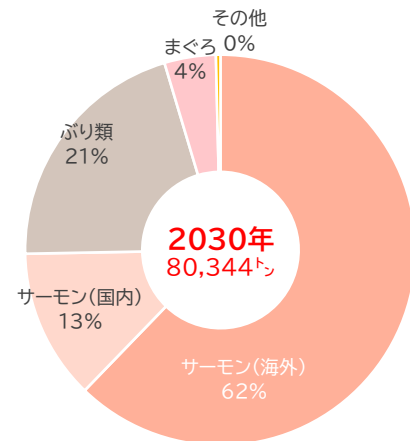
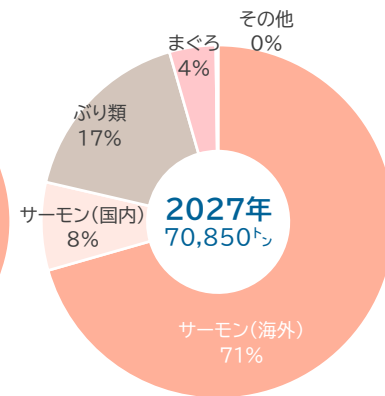
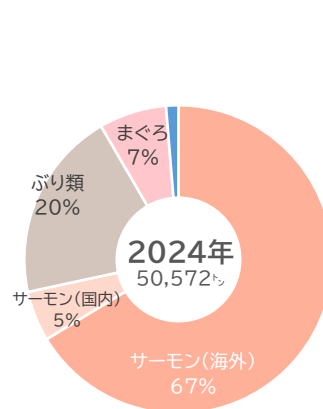
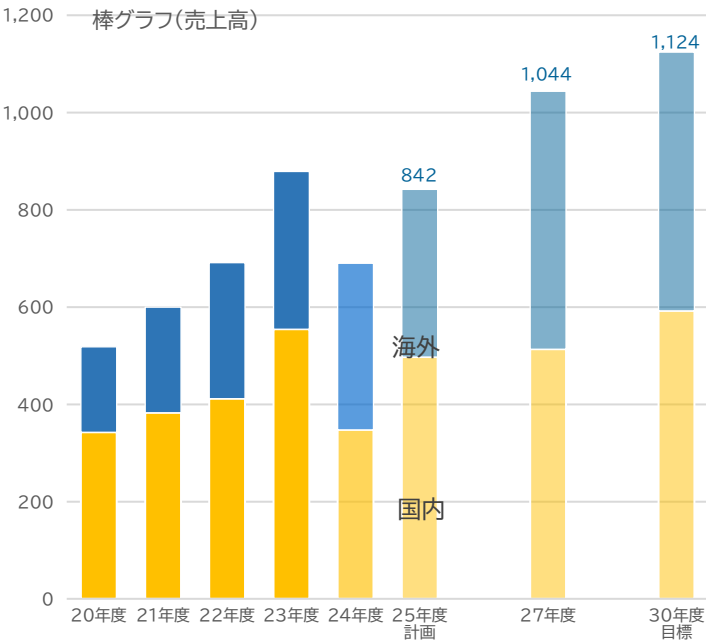
Recipe2 養殖事業の数値目標

2027年度目標 売上高1,100億円

売上高:億円

養殖事業の売上高

棒グラフ(売上高)



養殖事業の成長

安定した養殖事業に向けて

養殖技術の高度化・拡大



高付加価値化・効率化



南米サーモンの加工場増強



養殖生産性の改善



新たな取り組みと事業規模の拡大の取組

試験養殖の事業化



陸上養殖技術



輸出拡大



新たな漁場展開(海外含)



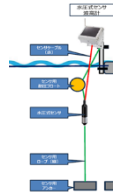
スマート養殖（IT/DX戦略）

- 先端技術の活用と機械化・省力化技術の導入を推進、飛躍的な生産性向上を目指す

センサー・データソースの開発

●養殖環境のデータ

IoTを活用したリアルタイム漁場環境モニタリング



●在池魚（サイズや体重など）のデータ

AI画像解析を活用した尾数カウントシステム



漁具・ハードウェアの開発・導入

●給餌システムの開発

境港漁場のプラットフォーム型給餌サイロ式システム



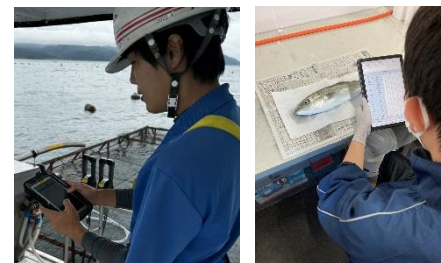
●養殖機器の導入

ぶり用 自動ワクチン接種機の導入



飼育管理情報のスマート化

●飼育情報や魚病カルテのスマート化



BIツール：水産用医薬品プラットフォーム



海洋環境負荷を軽減した持続的な養殖の実現や効率的な操業による労働環境の改善に繋げる

世界標準への取り組み

CO₂削減、脱炭素対応

- 生産技術の変革（小型漁船・生け簀からの脱却）
 - ✓ 遠隔自動給餌システム実装により、給餌に係る船舶稼働が対象生け簀を削減
 - ✓ 三陸漁場では、フィードバージ・大型生け簀などを導入



- 水素燃料電池船の実証試験(宮崎)
水産庁「養殖業シナジービジネス創出事業」

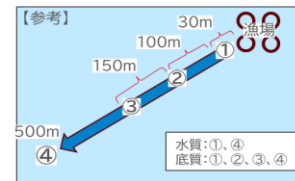
養殖場の環境モニタリングと評価

項目	調査拠点	採集ポイント	タイミング
水質	全窒素(T-N)	生簀直下および生簀より500mにて1ポイントずつ (合計2ポイント)	最も環境負荷の高い時 ex.最大バイオマス時、最大給餌量時、最高水温時
	全リン(T-P)		
底質	硫化物 T-S	生簀より30m以内、31-100m、101-150m、151-500mにて1ポイントずつ (合計4ポイント)	
	酸化還元電位		

【ASC新養殖基準】→今年の第二四半期中に発表か



- 水質: 養殖場単体だけではなく水域でも評価し、窒素やリンの排出量の制限やモニタリング内容が強化された
- 底質: 生簀からの距離に応じて、硫化物と酸化還元電位で評価
一定基準以下の評価の場合、底生生物やポイント数の追加



ニッスイのサーモン養殖計画における 陸前高田市との取組みについて



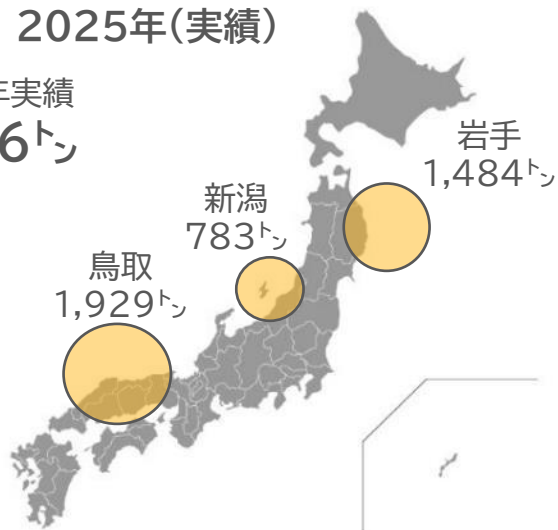
ニッスイ 国内養殖サーモン計画

2030年目指す姿：サーモン10,000トン規模【岩手生産量目標7,000トン】

- ① 既存漁場の最大化(鳥取:境港、新潟:佐渡、岩手:大槌)
- ② **岩手漁場(陸前高田、大船渡)で拡大**。優良な海面漁場の競争力で生産量を増強
- ③ サステナブルな養殖を実現するため、**先進的な漁具と技術**を導入
地元資源の活用で淡水種苗生産も実施(**さけ・ます孵化場の活用**)

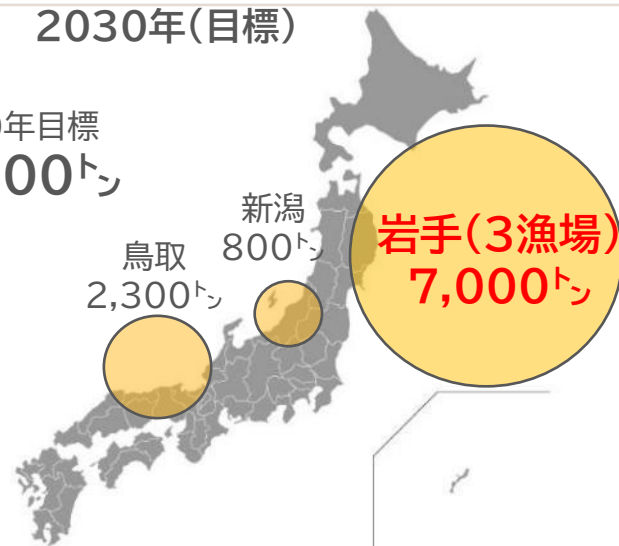
2025年(実績)

2025年実績
4,196トン



2030年(目標)

2030年目標
10,000トン



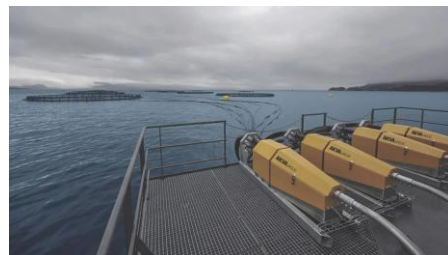
陸前高田市との取組み 海面漁場

広田湾漁協管内 海面漁場でのサーモン養殖生産



- ◆ 2年間の試験養殖実績を踏まえ、広田湾内2漁場にて、サーモン養殖の区画漁業権設定(2025年10月1日付)
- ◆ 2026年度から本格的に規模を拡大予定
2030年度 2,500トンの水揚げ目標
- ◆ 大型イケス(直径50m)や洋上設置型自動給餌設備等の先端養殖技術を導入し、効率的な養殖スタイルを追求
- ◆ 自治体、漁協と協働し、環境モニタリング調査の実施等、環境や地域社会と協調した養殖生産の実現を目指す

広田湾新漁場に導入予定の新規給餌設備、大型イケス (イメージ)



陸前高田市との取組み 淡水種苗

- ◆ 海面生産の拡大にあわせ、新規の種苗生産拠点を整備
- ◆ さけ・ます孵化場の設備活用と効率的なサーモン種苗生産拠点を融合する新たな形態



【気仙川養魚場】

PP樹脂製 φ15m 300t水槽 × 10基
排水処理(固形物回収用ドラムフィルター/沈殿槽)設置
液体酸素棟・酸素供給装置
自動給餌装置

- ◆ サーモン養殖生産には、良質な種苗(稚魚)の確保が必要
- ◆ 海面での生産規模拡大には、種苗生産拠点の整備も必須
- ◆ 沿岸各地のさけ・ます孵化場は漁獲量減少に伴い、稼働率の低下が課題となっているが、豊富な地下水など貴重な資源を有する
- ◆ さけ・ます孵化放流事業の休止期間を活用し、既存の取水設備等をサーモン種苗生産にも転用できるよう改修
- ◆ 豊富な地下水や設備を有効活用し、隣接する土地にサーモン種苗養殖に適した大型水槽を建設



まだ見ぬ、食の力を。